報道資料

企画展

戦前を生きる　収蔵品が伝えるココロ

Living in Japan before 1945

前線の兵士から子に届いたハガキ

令和５年(2023)1 月 21 日(土曜)～3 月 5 日(日曜)

名古屋市博物館　NAGOYA CITY MUSEUM

【基本情報】

展覧会名称　　企画展　戦前を生きる
キャッチコピー(副題)　　収蔵品が伝えるココロ
英文　　Living in Japan before 1945
会期　　令和5年(2023)1月21日（土曜）～3月5日（日曜）
休館日　　毎週月曜日、第4火曜日（1/24・2/28）
会場　　名古屋市博物館　1階　特別展示室
主催　　名古屋市教育委員会・名古屋市博物館
開館時間　　午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
観覧料金

単独券　　一般300(250)円　高大生200(150)円
　　中学生以下無料　市内在住65歳以上100(80)円
常設展との共通券　一般400(350)円　高大生300(250)円
　　中学生以下無料　市内在住65歳以上200(110)円
※カッコ内は30名以上の団体料金。
※高大生・中学生は学生証等、市内在住65歳以上の方は敬老手帳等を提示。
※名古屋市交通局の一日乗車券・ドニチエコきっぷを利用してご来館の方は当日料金より50円割引。
※障害のある方は手帳の提示、難病患者の方は受給者証の提示により、本人と介護者2名まで無料。
※各種割引を重複しての利用はできません。

名古屋市博物館
〒467-0806　名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1
TEL　052-853-2655　FAX　052-853-3636
ホームページ　http://www.museum.city.nagoya.jp/
おでかけは公共交通機関で。名古屋駅から地下鉄桜通線で17分。「桜山」駅下車、4番出口から徒歩5分。エレベーターをご利用の方は、3番出口から南へ400m。

【概要】

先の大戦が終わることで今の私たちにつながる戦後が始まりました。しかし、憲法など国の根本や色々な常識は違えども、戦前の人々は“当時の当たり前”の中で今の私たち同様、毎日を精一杯生きていました。約半世紀にわたる名古屋市博物館の戦前期の収集品を見つめ、物の向こう側に確かに存在した人々のココロに近づきたいと思います。
※本展では太平洋戦争終戦までの時期の日本を、「戦後」に対する「戦前」として扱います。

■ポイント　社会の「当然」が今と違っていた頃

明治の中頃に制定された大日本帝国憲法では天皇は神聖と定義され、国民はその「臣民」でした。同じ頃に国会が開設されたものの、法律を超越して天皇から発せられる詔勅(みことのり)が存在していました。明治天皇が呼びかける形で発した教育勅語や軍人勅諭が国や軍人をまとめるための精神の根本とされたのも、当時の国家としては自然なことでした。その後、教育勅語以前の教育で育った世代が少しずつ亡くなっていくにつれ、生まれながらに「大日本帝国の臣民」として教育を受けた世代の割合が徐々に増加していきます。やがて末期の太平洋戦争の頃には、ほとんどの国民が「教育勅語世代」へと入れ替わりました。社会の当然や常識といったものが相当に均質化していったのです。

戦前の人々を包んでいたこうした空気感と、そうした前提の中で生きた個人がうかがえる資料を中心に、収蔵品からご紹介します。

【展覧会の構成と主な出品資料】

◎勅語関係資料

戦前は、君主である天皇の名で、国民に対する天皇の意思の表明「詔勅(みことのり)」がしばしば発せられました。例えば教育理念については「教育勅語」が、また軍人精神としては「軍人勅諭」が、国会などが定める法令とは別に出されました。やがて絶対化されていく勅語類に関係する資料と、それらに基づく修身(道徳)教育の資料を紹介します。

〇御真影御勅語奉安庫

神武天皇紀元 2600 年(昭和 15 年･1940)を記念して名古屋の国民学校で作られた天皇の真影(肖像写真)と勅語の保管庫です。非常持出し用のカバンが付属する大変珍しいものです。

◎天皇行幸関係資料

明治・大正・昭和の三代の天皇が、宿泊を伴う行幸で来名しています。その際の天皇の移動はまさにパレードでした。市民にとっては天皇を現実に感じる極めて稀な機会で、国側からすれば君主である天皇を臣民の目にアピールできる絶好のイベントでもありました。今回は大正・昭和の陸軍特別大演習と昭和の即位式途次宿泊の資料を紹介します。

〇陸軍特別大演習関係資料

天皇が陸軍の最高司令官「大元帥」として統監する年に一度、数万人規模の大演習で、大正 2 年(1913)は名古屋と近隣地域で行われました。大正天皇は名古屋離宮(名古屋城)に 6 泊し、その移動のたびに何万もの住民が沿道に押し寄せました。

〇即位大典名古屋宿泊関係資料

昭和の即位礼は昭和 3 年(1928)京都御所で行われ、昭和天皇・皇后はその往復とも名古屋離宮に一泊したため、名古屋の街には神器・天皇・皇后と揃った稀代のパレードが 2 度出現しました。

即位する天皇を迎える名古屋市民(紙焼写真)

◎出征・銃後関係資料

徴兵制度があった大日本帝国では男性には兵役義務があり、軍隊は生活の一部分でした。しばしば戦争があったために、招集が出征に直結することも多々ありました。出征兵士は残してきた人々を、残された人々は戦地の兵士を思う、そんな跡を多くの資料に見ることができます。「武運長久」も、凱旋、つまりは生還してほしいという願いでもありました。

〇妻の気持ちを詠んだ和歌が書かれた慰問袋（写真右上）

出征する夫のため妻が作った袋です。故郷からの慰問の品々は戦地の兵士の最大の楽しみでした。

〇完成しなかった千人針（写真右中）

兵士の生還を祈って女性によって作られた千人針です。未完成で、糸と針が途中のまま残っています。

○前線の兵士から子に届いたハガキ（表紙写真）

フィリピンに出征し、ついに帰ってこなかった父親が、家族にあてて送り続けた通信類の一枚です。

◎ポスター・絵本資料

昭和にはキャッチコピーと優れたデザインの絵とを組み合わせたポスターが、宣伝効果の高いメディアとして多用されます。国の方針などもスローガンとしてポスターに盛んに登場し、街にあふれました。また昭和 10 年代になると、母親による絵本の読み聞かせまでもが、幼少期から軍や国策になじむための方策として期待されるようになっていきます。

○軍事機密の保護を訴えたポスター(写真左)

陸軍省が製作したもので、どこにスパイがいるかわからないから気をつけろ、そもそも軍事秘密に接触するようなこと自体を避けよ、と呼びかける大判のポスターです。

○国策を普及するため作られた絵本(写真右)

国外での戦争が長期化する中で、絵本も報国のための手段として活用されるようになります。母親に対してそうした編集意図をあとがき等で明確に呼びかけた例も多くあります。

◎学童疎開関係資料

昭和 19 年(1944)夏、名古屋市の国民学校は東海三県の各地に分散して集団疎開しました。疎開生活は昭和 20 年(1945)8 月の終戦後もしばらく続きました。親元を離れ全く終わりの見えない集団生活と不衛生、慢性的な食糧不足は児童にとって過酷なものでしたが、疎開生活を無限に運営し続けなければならなかった教員にとっても初体験の苦労の連続でした。

○正木国民学校の学童疎開資料

本校から疎開先への連絡文には、保護者や役所への対応に苦慮する教員の本音が記されています。

〇叢雲国民学校の学童疎開中の児童たちの記録写真

虱取りの様子など、疎開先でのごく日常の様子を画像で見ることのできる貴重な資料です。

◎写真絵葉書資料

城下町であった名古屋は、昭和になっても、名古屋城に代表される歴史的風情があふれる都市でした。しかし終戦直前、空襲で市街の大半を焼き尽くされました。市民は家など生活の基盤を失っただけでなく、故郷の風景をも喪失したのです。昭和 20 年(1945)以前には確かにあった景観を、絵葉書として遺された写真によって建築物を中心に紹介します。

〇名古屋の古風景を伝える絵葉書

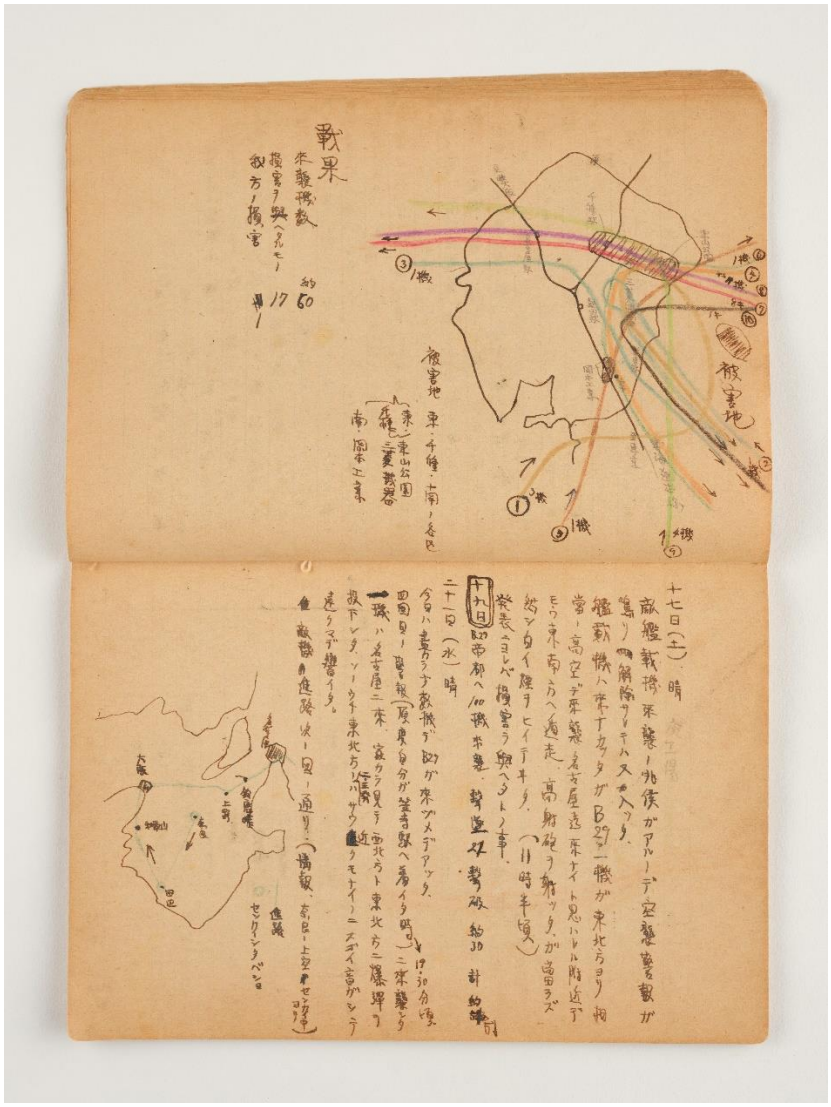
数多くの古建築物や近代的な町並みが、当時の流行メディアである絵葉書に盛んに採用されています。

◎空襲下での個人の記録

昭和 20 年(1945)の名古屋は、昼夜の別なく毎日のように警報が鳴り、空からはアメリカ軍の B29 爆撃機の編隊から爆弾や焼夷弾が落とされ、それに対抗して地表からは高射砲を撃ち上げる、まさに戦場でした。つまり市民全てが戦場に放り込まれたのです。「銃後」はもう街のどこにも存在しませんでした。その渦中で書かれた個人の日記などを紹介します。

〇B29 空襲日誌

当時旧制中学生で軍需工場に勤労動員中であった筆者が、B29 の襲来と爆撃の様子とを毎回記録しました。まさに観察日記で、名古屋市上空での編隊の航跡を克明に記録している点が貴重です。



出品件点数　67 件 119 点

【関連事業】

＜展示説明会＞

日　　時｜1 月 28 日（土曜）13 時 30 分～14 時 30 分（開場 13 時）
講　　師｜当館学芸員
会　　場｜名古屋市博物館 1 階 展示説明室
定　　員｜70 名

＜テーマ別の資料講座＞

日時｜　①2 月 11 日（土曜・祝日）「ポスターと絵本を中心に」
　　②2 月 18 日（土曜）「学童疎開と教師を中心に」
　　③2 月 25 日（土曜）「勅語資料と行幸を中心に」
　　④3 月 4 日（土曜）「出征兵士と銃後を中心に」
各回 13 時 30 分～14 時 30 分（開場 13 時）
講師｜当館学芸員
会場｜名古屋市博物館 1 階 展示説明室
定員｜70 名
※いずれも聴講無料、事前予約制

名古屋市電子申請サービス（https://ttzk.graffer.jp/city-nagoya)からの申し込み。募集開始は、展示説明会は令和 5 年 1 月 5 日(木)、講座は同 1 月 12 日（木）からです。先着順にて受付け、定員に達し次第終了します。キャンセル待ちの受付けはありません。

講座などで手話通訳・要約筆記などによるサポートをご希望の方は、当日の 2 週間前までに名古屋市博物館までご相談ください。

マスク着用等、新型コロナウィルス感染症対策へのご理解・ご協力をお願いいたします。新型コロナウィルス感染症の影響により、展覧会の運営および関連事業を変更・中止する場合があります。ご来館の前に博物館公式サイト、SNS にて最新情報をご確認ください。

紹介文(２５０字)

先の大戦が終わることで今の私たちにつながる戦後が始まりました。天皇を君主とし、国民は「臣民」とされた戦前の大日本帝国は、憲法など国の根本やさまざまな常識は今と大きく違っていました。しかし人々はその“当時の当たり前”の中で今の私たち同様、毎日を精一杯生きていました。名古屋市博物館の戦前期にまつわる収集品から、戦前の人々を包んでいた社会の前提と、その中で確かに生きた個人をうかがい知ることができます。現代に残された“物”の向こう側に確かに存在した人々のココロに少しでも近づきたいと思います。※本展では、太平洋戦争終戦までの時期の日本を、「戦後」に対する「戦前」として扱います。

紹介文(２００字)

先の大戦が終わることで今の私たちにつながる戦後が始まりました。天皇を君主とし、憲法など国の根本や色々な常識が違っていた戦前の大日本帝国でしたが、人々は“当時の当たり前”の中で今の私たち同様、毎日を精一杯生きていました。名古屋市博物館の戦前期にまつわる収集品を見つめ、現代に残された“物”の向こう側に確かに存在した人々のココロに近づきたいと思います。※本展では、太平洋戦争終戦までの時期の日本を、「戦後」に対する「戦前」として扱います。

紹介文(１５０字)

先の大戦が終わることで今の私たちにつながる戦後が始まりました。しかし、憲法など国の根本や色々な常識は違えども、戦前の人々は“当時の当たり前”の中で今の私たち同様、毎日を精一杯生きていました。名古屋市博物館の戦前期にまつわる収集品を見つめ、現代に残された“物”の向こう側に確かに存在した人々のココロに近づきたいと思います。

紹介文(１００字)

先の大戦が終わることで今の私たちにつながる戦後が始まりました。憲法や常識などは違いましたが、戦前の人々は“当時の当然”の中で、私たち同様毎日を精一杯生きていました。戦前期にまつわる収集品から人々の心情を中心に紹介します。

紹介文(５０字)

戦後とは憲法や常識などは違いましたが、戦前の人々は“当時の当然”の中で精一杯生きました。その心情を中心に紹介します。

FAX 052-853-8400　名古屋市博物館学芸課「戦前を生きる」展　広報担当　宛

広報用画像・読者プレゼントチケット申請書

企画展 戦前を生きる 収蔵品が伝えるココロ

令和 5 年(2023)1 月 21 日（土）～3 月 5 日（日）

◆作品画像の使用は、「企画展　戦前を生きる　収蔵品が伝えるココロ」を紹介する場合に限ります。展覧会終了後の利用、または二次使用はお断りします。

◆広報用画像を紹介する場合には、展覧会名・会期・会場・資料名・所蔵者名を必ず記載して下さい。

◆広報用画像は全図で使用して下さい。トリミング、変形、部分使用、文字のせを行う場合は、事前に申請の上、承認が必要です。

◆掲載記事につきましては、基本情報確認のため、校正刷り、原稿の段階で下記のお問い合わせ先までお送り下さい。

貴社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　媒体名＿＿＿＿　□WEB 媒体　□紙媒体

ご住所　〒＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご担当者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　ご所属部署＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

TEL＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　FAX＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご掲載・放映の予定日が決まっている場合はお知らせください。＿＿＿＿＿＿月＿＿＿＿日

［個人情報の取扱いについて］ご記入いただきました個人情報は、名古屋市博物館より今後の展覧会に関する情報発信や連絡などが必要な場合にのみ使用します。許可なく第三者に個人情報を提示することはありません。

画像を 1 点以上掲載し、本展をご紹介いただける場合、読者向けチケット(5 組 10 名まで)を提供します。

□希望する（　　組　　名分）　□希望しない

＊チケットは、原則として掲載紙・誌（web の場合は掲載アドレスの通知メール）を広報担当者が確認させていただいてから発送します。

希望される画像の番号に✓を入れてください。

□1 前線の兵士から子に届いたハガキ 館蔵

□2 勅語の保管庫と非常持出用かばん 館蔵

□3 即位する天皇を迎える名古屋市民 館蔵

□4 出征中の兵士を励ますための品々 館蔵

□5 軍事機密の保護を訴えるポスター 館蔵

□6 国民学校の学童疎開先での書類群 館蔵

お問い合わせ先　名古屋市博物館学芸課「戦前を生きる」展　広報担当（森・中村）

〒467-080　名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1　TEL052-853-2655　FAX052-853-8400　E-mail ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp